

第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

4 青少年育成

～青少年が健全に成長・発達しているまち

<A 基本計画の目標>

青少年の地域との連携を深めるため、青少年団体に対する活動を支援し、指導者の育成を図ります。あわせて、地域活動やボランティア活動への参加を支援します。

家庭、学校や地域と連携する中で青少年の健全な育成を図ります。

安心できる環境の中で子どもたちが遊びや生活を通して自主性をはぐくみ、社会性を身につけられるよう支援します。

家庭、学校、地域などでの青少年を取り巻くさまざまな問題に対応するために、相談指導体制の充実と非行防止に努めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	64.1 %	70.9 %	68.3 %	65.2 %	68.8 %	↑

<C 目標達成に向けた24年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【子どもみらい部】

	自己評価
<p>深沢小学校内のふかさわ子どもの家が入所児童の増加により施設が過密となっていたため、空き教室を利用し、平成24年4月に増設しました。</p> <p>施設が老朽化していたおなり子どもの家について、平成24年5月に市庁舎第4分庁舎に移転しました。</p> <p>暫定的な施設となっていたいいち子どもの家について、新たに第一子ども会館・子どもの家として建設し、平成25年1月に開設しました。</p> <p>耐震性に課題のあった深沢子ども会館・腰越子ども会館を平成25年2月に閉鎖し、併せてこしごえ子どもの家を腰越小学校内に移転しました。</p> <p>入所児童の増加により施設が過密となっていたやまさき子どもの家について、増築棟を3月に建設し、増設しました。</p> <p>学区の小学校から距離があり、また、施設に課題のあった大船第二子ども会館・子どもの家の移転先について、小坂小学校に近接した旧北鎌倉美術館を3月に取得し、子どもの家については平成25年7月、子ども会館については10月の移転をめざしています。</p> <p>梶原子ども会館を子育て支援団体と市による協働事業として、7月から運営を開始し、子どもや親子の新たな居場所づくりに努めました。</p>	○
<p>平成23年8月に策定した子ども・若者育成プランに基づき、子ども・若者育成プラン推進協議会を開催して、青少年の育成・支援策について協議しました。</p> <p>プランの中の特に重要な取組である青少年の居場所づくりを推進する上で、地域の中で青少年の居場所づくりに関わっている市民、青少年育成団体等の意見を伺い、取組に反映するため、居場所づくりワークショップを開催しました。</p> <p>青少年育成団体の協力を得て、平成24年7月に子ども・若者育成プラン講演会を開催し、市民に対する啓発を図りました。</p>	◎
<p>子どもの家の目指すべき方向性を明確にし、円滑な運営を図ることを目的として、子どもの家入所児童保護者の協力を得ながら、「子どもの家運営指針」を策定しました。</p>	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【こどもみらい部】

・青少年の居場所づくり、青少年会館が青少年に魅力的になるための仕掛けなど、「子ども・若者育成プラン」が実現するための具体的方策の検討が必要であり、少しでも早く成果に結びつくように、日程を意識して進行管理して頂きたい。



子ども・若者育成プランの目標を達成するよう、日程を意識しながら子ども・若者育成プラン推進協議会によりプランの推進及び進行管理を行っていきます。

・推進協議会の活動内容等を見えるようにすべきである。

子ども・若者育成プラン推進協議会では、施策の評価や提言等を行う白書を作成し、協議会の活動内容等が分かるようにしていきます。

・子どもの家・子ども会館の充実として、子ども会館未設置学区の解消が必要である。ただし、子ども会館の利用の実績値が伸び悩んでおり、子ども会館の在り方や方向性についても検証すべき時期に来ている。

現在、子ども会館が未設置となっている地区については、今後策定される公共施設再編整備計画を見据えた中で、検討していきます。

・例年指摘していることでもあるが、取組の多くが施設の整備及び維持・管理に関するものであるが、重要なことはそこで行われている活動であることから、どのような活動を促進するために、個々の施設が機能しているかに視点を置いて頂きたい。

青少年が安全・安心に過ごせるよう施設の整備、維持管理をしていくことはもちろんですが、子ども・若者育成プランの目標の達成に向け、各施設が青少年の健全育成のための施設として機能していくよう推進していきます。

・震災の経験を有効に生かして、青少年が鎌倉のまちを創造していくといった大きな視野から青少年育成を考えて頂きたい。

子ども・若者育成プランの目標2として「人と人とのつながりの中で、社会の担い手となるための社会性と主体性を育てよう」を掲げており、この目標の達成に向け、地域社会の担い手となる青少年の育成に向けた施策の推進に努めていきます。

<E 24年度未達成事業の課題・問題点など>

【こどもみらい部】

小学校から距離がある西鎌倉子ども会館・子どもの家、岩瀬子ども会館・子どもの家の整備、子ども会館未設置学区の解消に向けた検討が課題となっています。

※未達成の理由<支障となった理由>

耐震性など施設の安全性に課題のある子ども会館・子どもの家の対応を優先して行う必要があります。

<F 今後の展開(取組方針)>

【こどもみらい部】

子ども会館・子どもの家の整備に関し、大船第二子ども会館・子どもの家の旧北鎌倉美術館への移転については、子どもの家を平成25年7月、子ども会館を10月に移転することをめざし、整備を進めます。
閉館した深沢子ども会館については、利用者から暫定施設の設置を求める陳情が市議会に出され、採択されたことから、陳情の趣旨を踏まえ、暫定施設の設置に向けて検討していきます。
施設に課題のあった腰越子ども会館・子どもの家について、現在、子どもの家は暫定的に腰越小学校内に移転し、子ども会館は閉館していますが、今後、改修を進めます。
小学校から距離のある子どもの家の整備や子ども会館未設置学区の解消等については、公共施設再編計画と合わせて対応を検討していきます。

青少年の居場所づくり、青少年会館が青少年に魅力的になるための仕掛けなどプランが実現するための具体的方策について子ども・若者育成プラン推進協議会を中心に検討を進めます。

<G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度 目標値	H27年度 目標値
子ども会館の利用度(+)	子ども会館の1日平均の利用率	3.4 %	3.1 %	3.1 %	3.1 %	3.7 %	4 %	5 %
青少年育成活動参加率(+)	青少年育成活動に参加したことがある市民の割合	18.6 %	18.7 %	17.2 %	17.8 %	17.3 %	21 %	24 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	265,431千円	253,438千円	282,372千円	253,811千円	522,877千円			
	(国・県)	29,083千円	33,301千円	42,458千円	33,522千円	151,829千円			
	(負担金等)	39,693千円	44,534千円	46,925千円	47,185千円	49,463千円			
	(一般財源)	196,655千円	175,603千円	192,989千円	173,104千円	321,585千円			
	人員配置数	5.5人	5.8人	5.7人	5.5人	6.6人			
	人件費 (B)	50,935千円	56,670千円	53,304千円	51,640千円	57,617千円			
	総事業費(A+B)	316,366千円	310,108千円	335,676千円	305,451千円	580,494千円			
	対前年比		98.0%	108.2%	91.0%	190.0%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・平成23年8月に策定された「子ども・若者育成プラン」に基づき、子ども・若者の居場所づくりに向けた取組(図書館機能との連携など)が推進された。
- ・梶原子ども会館を市民団体と市・青少年指導員との協働事業として運営し、子どもの居場所づくりをした。
- ・子どもの家の運営指針を作成した。
- ・プランを推進する上で、ワークショップの実施により、地域の中で青少年の居場所づくりに関わっている市民、青少年育成団体等の意見を伺う等、現状やニーズの把握に努めている。



課題・提言

- ・この分野は施策の協議や、運営指針の策定等の段階であり、実践の状況や成果が具体的に見えてこない。
- ・子ども会館・子どもの家を利用しない子どもとその家族の意識を把握し、今度の施策形成を検討すべきである。
- ・子ども会館・子どもの家について耐震対策が優先であったことは理解できるが、今後は、小学校から距離のある子どもの家の整備や子ども会館未設置学区の解消等に向けた検討が必要である。
- ・これまでの子ども会館や子どもの家の老朽化や施設整備といった課題から、今後の子育て支援やその運営の見直しのチャンスである。思い切った改革も必要である。
- ・青少年の居場所づくりには期待する。新しい発想が求められる。
- ・青少年の育成には、その生態を可能な限り知る必要がある。そのためには若者と家族、教師、社会人、友人、先輩・後輩等、幅広い人達と本心で話合える機会を多く持つ必要がある。
- ・学童保育(子ども会館)は小学校高学年からは居辛くなると聞く。その年頃から中学生の居場所づくりが必要である。
- ・市民評価委員会などから一昨年にも指摘されているが、相変わらず箱モノを中心とした事業内容となっている。
- ・昨年度の市民評価委員会などからの指摘事項に対しても、ただ「検討していく」「推進していく」「行っていく」等だけであり、「検討し、どうするのか?」「具体的に何を行うことにより推進するのか?」等、具体的な内容が全くみられない。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、良好であった。